

科目名	臨床心理査定演習Ⅱ			ナンバリング	858024	授業形態	演習
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	山本佳子〇	担当教員					

授業の概要	心理査定を行う際の基本的な考え方、留意点について学ぶと共に、各種心理検査について、特徴、理論的背景、施行法、解釈について、演習及び事例検討を交えながら理解を深める。特に、単なる技術を機械的に覚えるのではなく、臨床実践での活用を念頭に置きながら、心理査定を行う姿勢について総合的な理解を得ることを目的とする。 ① 公認心理師の実践における心理的アセスメントに関する理論と実践の意義 ② 心理的アセスメントに関する理論と方法 ③ 心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用						
到達目標	1. 心理査定の基本的な考え方・留意点を理解し、身につける。 2. 知能検査の成り立ち・特徴を理解し、正しく施行・解釈できるようになる。 3. 投映法（P-Fスタディ）の成り立ち・特徴を理解し、正しく施行・解釈できるようになる。 4. 神経心理学的検査（記銘力検査）の成り立ち・特徴を理解し、正しく施行・解釈できるようになる。						
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）	心理検査は、内容・解釈法などに関する管理が厳しく定められているので、十分な倫理配慮のもとで取り扱うこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【人文学研究科 臨床心理専攻（修士課程）のディプロマポリシー】						
	○	1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。					
	○	2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。					
		3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。					
	○	4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。					
		5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					

標準的な到達レベル（合格ライン）の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 心理査定の基本的な考え方・留意点を理解し、身につける。 2. 知能検査の成り立ち・特徴を理解し、正しく施行・解釈できるようになる。 3. 投映法（P-Fスタディ）の成り立ち・特徴を理解し、正しく施行・解釈できるようになる。 4. 神経心理学的検査（記銘力検査）の成り立ち・特徴を理解し、正しく施行・解釈できるようになる。	1. 心理査定の基本的な考え方・留意点を理解し、身につける。 2. 知能検査の成り立ち・特徴を理解し、正しく施行・解釈できるようになる。 3. 投映法（P-Fスタディ）の成り立ち・特徴を理解し、正しく施行・解釈できるようになる。 4. 神経心理学的検査（記銘力検査）の成り立ち・特徴を理解し、正しく施行・解釈できるようになる。 5. 事例に応じて査定の目的を自ら考え、テストバッテリーを組み、総合的な心理査定ができるようになる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験（中間・期末試験）							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		30%
宿題・授業外レポート		○	○				30%
授業態度・授業への参加		○		○	○		40%

課題、評価のフィードバック	レポートは要請に応じてフィードバックできるように準備しておく。
---------------	---------------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	心理査定に対する基本的な考え方	心理的アセスメントの目的及び倫理、観点及び展開、方法(観察、面接及び心理検査)についての概説	
	第2回	田中ビネー式知能検査①	田中ビネー式知能検査の成り立ち・理論的背景・特徴について知り、施行法についての演習	
	第3回	田中ビネー式知能検査②	田中ビネー式知能検査が正しく施行できるようにする。	
	第4回	田中ビネー式知能検査③	田中ビネー式知能検査の解釈について、事例検討をを通して、適切な記録及び報告ができるようにする	
	第5回	MMPI①	MMPIの成り立ち・理論的背景・特徴について知り、施行法についての演習	
	第6回	MMPI②	MMPIが正しく施行できるようにする。	
	第7回	MMPI③	MMPIの解釈について、事例検討をを通して、適切な記録及び報告ができるようにする	
	第8回	P-Fスタディ①	P-Fスタディの成り立ち・理論的背景・特徴について知り、施行法についての演習	
	第9回	P-Fスタディ②	P-Fスタディが正しく施行できるようにする。	
	第10回	P-Fスタディ③	P-Fスタディの解釈について、事例検討をを通して、適切な記録及び報告ができるようにする	
	第11回	P-Fスタディ④	P-Fスタディの解釈について、事例検討をを通して、適切な記録及び報告ができるようにする	
	第12回	P-Fスタディ⑤	P-Fスタディの解釈について、事例検討をを通して、適切な記録及び報告ができるようにする	
	第13回	記銘力検査①	記銘力検査の成り立ち・理論的背景・特徴について知り、施行法についての演習	
	第14回	記銘力検査②	記銘力検査が正しく施行できるようにする。	
	第15回	記銘力検査③	記銘力検査の解釈について、事例検討をを通して、適切な記録及び報告ができるようにする	
	試験	実施しない		
授業の進め方		演習形式で行う。		
授業外学習の指示		施行方法の習熟や、解釈、記録、報告のとりまとめなどは、授業前に、各自やっておくこと。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	使用しない
参考書	各検査テキスト(マニュアル)を使用する。
参考URLなど	
その他	